

## 81

## 労働科学研究所所蔵「温知堂文庫」資料について

清水 信子

北里大学東洋医学総合研究所 医史学研究部

## ○温知堂文庫

労働科学研究所所蔵「温知堂文庫」(医書関係約771点約2,833冊, 漢学関係約321点約1,043冊)は、江戸時代後期、備前で活躍した漢蘭折衷医、難波抱節(寛政三・1791~安政六・1859, 通称立愿, 名経恭, 字子敬, 号抱節)とその子経直(文政元・1818~明治十七・1884, 通称経直, 立愿, 号東里)を中心とした難波家代々の旧蔵書である。

抱節は、内科を吉益南涯に、産科を賀川蘭斎に、外科を華岡鹿城に、そして種痘術を緒方洪庵に学び、経直は、内科を吉益北洲に、産科を賀川蘭斎に、外科を華岡塾に学ぶとともに、漢学を藤沢東咳、亀井昭陽、帆足万里に学び、各々、各科の医療に従事する一方、家塾思誠堂にてその学を広めた。

本文庫には、抱節、経直の各著述とそれらの稿本が残る他、書入本も少なくない。抱節には、著述に『続類聚方』、『傷寒論金匱字解』等があり、校正、補訂本には吉益南涯『観証辨疑』の校異本『(校本)観証辨疑刪補附言』、吉益東洞『類聚方』を補正し刊行した『類聚方集成』の稿本『補正類聚方』、そして賀川有斎『産術』を漢文訳改訂した『産術辨』がある。また特筆すべき書入本に、賀川玄悦『子玄子産論』、賀川玄迪『産論翼』等がある。一方、経直には、『外科小補』『傷寒論集成標註』『傷寒論新註』『金匱要略方論新註』等の著述があり、中でも『傷寒論新註』は初稿から三稿、そして清書本まで揃う。これら稿本や書入本は、抱節、経直の研究、著述の過程等が窺知されるものとして興味深いのが、本発表においては、まずは抱節旧蔵書から産科書について紹介する。

尚、文庫名「温知堂文庫」については、抱節、経直の時代には用いておらず、大正二年の難波家作成目録「温知堂蔵書目録」に由来する。抱節は「思誠堂」、経直は「温故堂」を用い、本文庫資料にも版心下部に「思誠堂蔵」「温故堂蔵」と摺られた用箋が散見するが、「温知堂」の名は見えない。

## ○抱節関係産科書

抱節の産科書には自著『胎産新書』があるが、本文庫には見えず、所蔵される産科書は、賀川流の産科書はじめ水原三折『産科探領図訣』等の和書から宋郭稽中『産育宝慶方』等漢籍まで約二十以上に上る。中で前出『産術辨』と『子玄子産論』『産論翼』は抱節の産科研究の軌跡が現れるものとして重視される。『産術辨』には刊本二種二点と写本二種三点があり、刊本と写本では著録内容が異なる。刊本二種は第一版とその改訂版にあたり、改訂版では第一版の訂正部分の版木を削去している。いずれも刊行年は未詳であるが、見返しに「抱節主人授／産術辨／思誠堂蔵」、版心下部に「思誠堂蔵」とあることから、家塾思誠堂の私家版であろう。一方、写本はそのうち一点の見返しに、「此書係有斎先生原著国字写之頗多訛謬。抱節先生曾訳以漢文梓之家塾。」と記されていることから、抱節が漢文訳改訂版を刊行後、さらに改稿したものである。またこの一点は本文内に校正が書き入れられた稿本で、他の二点はその清書本である。見返しにはさらに「近胎産新書成第八巻載手術……如抱節先生之業詳見新書、学者宜就本書(傍書「而観」)焉」と、『胎産新書』との著録内容の傾向の相違が記されており、これら二書に抱節の産科学が集約されていると言える。また『子玄子産論』『産論翼』には、眉欄に、各種文献からの引用を中心とした書入が詳密に施されるが、これらも『胎産新書』所引文献との関係が推察され、『産術辨』とともに抱節の産科学を追究しうるものとして、今後、詳査していきたい。

(本発表は、文科省科研費助成・基盤研究(B)「近世後期の医学塾からみる漢蘭折衷医学の総合的研究」(研究代表者：町泉寿郎、課題番号25282066)による研究成果の一部である。)